

院内感染対策について

新型コロナウイルス・インフルエンザ・ノロウイルスなど、感染症の流行は私たちの生活を脅かすものであり、昔に比べて私たちの感染症への意識は飛躍的に高まりました。国際的な人の移動が活発になる中、新興感染症が流行するリスクは今後も十分にあると思われます。当院をご利用される皆様におきましても、感染症および感染対策は、大きな関心事であると思います。

“病院”という場所は、「免疫が低くなっている患者さんが多い」「全員に個室を割り当てるのが難しい」「多くの医療従事者が治療やケアに関与する」という特徴から、以前より感染症の影響を受けやすい環境です。ひとたび病原体が院内に持ち込まれると、病棟の患者間・職員間で流行しやすいという問題があります。感染経路が複雑でどのように病原体が侵入し広まったのか特定が難しい場合や、既に病原体が潜伏し対策をすり抜けて発症してしまう場合があることで、感染対策をしても感染症の流行を抑えられないという場合があります。

そうした課題に対し、「感染症で苦しい思いをする患者さんを可能な限りなくしたい」という目標のもと、できうる対策に精意取り組んでおります。個室確保がなかなか難しいことや、治療やリハビリテーションの体制を維持しなければならないという制約の中で、感染防止をいかに両立できるかを考え、そのときの最善の対策を協議し実施しております。

この世から感染症を完全になくすことができないように、病院内での感染をゼロにすることもまた難しいことです。その理想に少しでも近づけるよう、根拠に則した対策を実施して参りますが、患者さんやそのご家族、ご面会の方々におかれましては、どうかこれらの事をご理解頂きますように、お願い申し上げます。

院内流行中は、感染した患者さんの行動の制限や面会の制限などご不便をおかけするとは思いますが、ご理解とご協力をお願い致します。また、患者さんやご家族の不安がないよう、感染後の治療やケアには全力であたらせていただきます。

ご不安な点やご不明な点がございましたら、お気軽にスタッフにお申し付けください。よろしくお願い致します。

令和8年6月

苫小牧東病院 病院長